

島根大学プロジェクト研究推進 機構 『萌芽研究部門』		平成23年度	年度報告書	提出日 平成24年2月17日
① プロジェクト 名	「出雲国」成立過程における地域圏の形成と展開にかんする総合的研究			
② プロジェクトリーダ ー	大橋泰夫	所属	法文学部社会文化学科	
		電子メール	ohashi@soc.shimane-u.ac.jp	
③ プロジェクトの概要（プロジェクトの最終年度における到達目標を簡潔に記入してください。）				
<p>本研究は、『出雲国風土記』に記述される地域的なまとまりが行政的に成立するに至る過程を、考古学および文献史学の史資料をふまえて通時的かつ実証的に把握しようとするものであり、地域というまとまりがどのようにして、いかなる背景をもとに形成され、展開したのか、そのメカニズムを探ることを目的とした。あわせて、出雲の成立や古代出雲にたいする認識が、古代から現代に至るまでそれぞれの時代や社会のなかでどのように形成され、変遷してきたかを明らかにし、古代出雲の姿を多角的に説明することをめざした。</p> <p>そこでは、出雲国の形成にいたる過程について、研究メンバーが研究目標を共有し、それぞれの専門分野から研究を進めた。そのなかで、出雲国形成を墳墓から検討するために、終末期古墳・廻原1号墳の発掘調査を行った。</p>				
④ プロジェクトのメンバー及び役割				
氏名	所属（職）	本年度の役割分担		
(プロジェクトリーダ ー) 大橋 泰夫	法文学部社会文化学 科・教授	研究総括、考古学的検討 出雲国府成立と出雲国形成過程の調査研究、国府関連遺跡の調査研究。廻原1号墳の調査研究（協力）		
大日方克己	法文学部社会文化学 科・教授	文献史的検討 国史・出雲国風土記・延喜式等の文献史料による出雲形成過程の調査研究、および中世・近世・近代における古代出雲や出雲形成過程に関する学問・思想の調査・研究		
山田 康弘	国立民俗博物館研究 部・准教授	考古学的検討 先史		
会下 和宏	ミュージアム・准教授	考古学的検討・普及啓発 出雲地域の弥生墓制と他地域墓制（日本列島・東アジア各地）との比較研究。先史～古代出雲の環境考古学的研究 「古代出雲」をキーワードにした普及啓発活動の博物館学的実践		
岩本 崇	法文学部社会文化学 科・准教授	考古学的検討 弥生・古墳時代における集団構造・集団関係形成についての調査研究、廻原1号墳の調査研究（中心）。		
角田 徳幸	島根県教育庁文化財課 古代文化センター・専 門研究員	考古学的検討 廻原1号墳の調査研究（協力） 大学と地域との連携		

⑤ (1) 本年度の研究計画目標の達成状況及び自己評価

(本年度当初の計画書に書かれた内容に沿って、計画と達成目標を簡条書きにしてください。また、その達成目標の項目ごとにその達成状況を記入し、以下の基準に従って自己評価して下さい。A:目標以上に成果をあげた B:ほぼ目標通りの達成度で予定した成果をあげている C:計画より遅れ気味であるが年度末には目標達成が可能である D:年度末までに目標達成は不可能である。自己評価がB以外の場合には、その原因についても記載して下さい。2～3月に行う計画のため未執行の場合には評価を空欄にして下さい。)

計画と達成目標	達成状況と自己評価
<p>計画：史資料の閲覧・資料化を継続し、データの収集を可能な限り進め、その一部について分析も行う。</p> <p>達成目標：史資料の調査・収集と、それに基づくデータベース・リストの作成・充実化。あわせて近世における古代出雲に関する資料の分析も行う。</p>	<p>(自己評価)B</p> <p>(1)考古学的検討 漢代併行期における日本列島や東アジア各地の墳墓資料を集成し、副葬品・墳丘をはじめとする墳墓属性の比較検討をおこなった。その成果の一端は論文として公表した。 出雲国府関連遺跡について、引き続き、関連資料の収集作業を行った。そのなかで日向国府、讃岐国府、陸奥国府等の資料調査を行い、遺構や出土遺物の現状把握を行った。その成果の一部は、学術雑誌の論文として発表した。</p> <p>(2)文献史的検討 ・平安時代までの古代出雲に関する史料の収集を進め。特に国司に関する史料はほぼ網羅、整理して、国司表としてまとめた。 ・出雲国風土記の諸写本と注釈書の調査・収集、延喜式など古代出雲にかかわる史料、それに関する写本・版本・注釈書・研究書の調査・収集、松江藩による出雲古代研究の成果である雲州本延喜式校訂・出版の中心人物藍川慎の史料調査・収集作業を行い、分析にも着手した。 ・とくに出雲風土記抄の写本については島根大学附属図書館所蔵本と古代出雲歴史博物館所蔵本の対校を行い、後者を出版社と共同で影印本として出版する準備に入った。藍川慎と雲州本延喜式の分析の一部は学術雑誌に発表した。</p>
<p>計画：考古学的フィールド調査として、松江市朝酌町所在の廻原1号墳の調査を継続して行う。廻原1号墳の発掘調査後に、発掘調査報告書作成に向けて準備作業を行う。</p> <p>達成目標：墳丘の形態・規模、埋葬施設の状況を把握するための発掘調査を実施する。 廻原1号墳の発掘調査後に、出土遺物等の整理作業を行い、発掘調査報告書作成に向けて基礎作業を行う。関連遺跡との比較研究を進める。</p>	<p>(自己評価)A</p> <p>廻原1号墳の発掘調査を主体的に進め、その成果の概要を報告した。また、研究発表や講演で廻原1号墳の歴史的意義についても言及した。さらに、出雲における終末期古墳研究の現状について整理をおこなうとともに、古墳の出現に関連して周辺地域や畿内地域の動向を整理し、出雲地域の実態に迫るための比較検討の材料を整備した。 廻原1号墳の図面、出土した須恵器等の整理作業を行い、発掘調査報告書作成に向けて基礎作業もおこなった。</p>
<p>計画：ミュージアムと連携して、成果を広く市民・研究者に普及する。</p> <p>達成目標：公開講座の開催、HPによる情報の発信</p>	<p>(自己評価)B</p> <p>ミュージアムと連携して市民講座(6回)を開講し、広く市民・研究者に発信した。市民講座には毎回40～50名前後の参加者があり、情報発信として成功した。またHPによる情報の発信も行った。 廻原1号墳の発掘調査については、調査中、毎日、インターネットで発掘経過の情報を公開し、東京・大阪をはじめとして全国からアクセスがあった。また、一般の市民や研究者に向けて現地説明会を開催し、研究者だけでなく、地元の方々にも好評であった。</p>

(2)プロジェクト全体の自己評価(プロジェクト全体としての達成目標から、今年度の研究成果がこれまでの経過・成果にもとづいてどの段階にあるのかを明示して下さい。また、各グループ間での連携状況についても記入してください。)

●プロジェクト全体評価(自己評価) プロジェクト全体としての達成目標に対する今年度の研究成果の達成状況について(自己評価)

古代出雲の多角的な姿を解明するために、それぞれのメンバーが考古学、文献史学の検討作業として、古代出雲に関連する史資料の現状について、資料化を実施した。その成果の一端については、今年度中の論文で公表した。また、広く研究成果を公開するために、島根大学ミュージアムと共同で市民講座を開催し、研究者だけではなく市民にも分かり易く情報発信を行った。

さらに、考古学的フィールド調査として、古代出雲の解明にとって重要遺跡の一つである終末期古墳・廻原1号墳の調査を行い、古代出雲の実像を考える上で大きな成果をあげた。対外的にも廻原1号墳の調査は注目され、島根考古学会から依頼があり、岩本が講演をおこなった。

また、本研究プロジェクトの目標にも係わる出雲国府をはじめとする国府成立の問題について、大橋が古代学協会(京都市)から、国府特集号の総論を依頼され、本研究プロジェクトの成果を含めて執筆した。

したがって、プロジェクト全体の達成状況については、萌芽研究2年目(最終年度)として、一定の研究成果をあげた。

●各グループ間またはメンバーとの連携状況

考古学、文献史学と分野が異なり、また大学外の地域の研究員も含まれた学際的な研究組織であるが、打合せを行い、メールも活用して連携を計るように進めた。考古学分野における調査研究の核である廻原1号墳調査にあたっては、岩本が中心になり研究メンバーが相互に連携・協力して実施した。また、公開講座開催にあたっては、研究目標を共有して発表を行った。

⑥ 公表論文、学会発表など(当該研究に関連した本年度の公表論文、学会発表、特許申請の件数を一覧表に記入して下さい。発明等に関しては、差し支えない範囲で記載して下さい。)

論文掲載(総件数)	21
学会発表(総件数)	13
特許出願(総件数)	

【内訳】

●論文(別途添付して頂く個人調査の中から年度末までに発行される学術雑誌等(紀要も含む)に掲載が確定しているものも含め、代表的なものを10件程度選んで記入してください。)

- ・大橋泰夫「古代国府の成立をめぐる研究」『古代文化』第63巻第3号 2011.12
- ・大日方克己「雲州本延喜式と藍川慎・屋代弘賢・埴保己一」『日本歴史』762号、2011.11、レフェリー無
- ・大日方克己「出雲国司補任表(稿) 大宝元年—保元元年」『松江市史研究』3号、松江市、2012.3(掲載予定)、レフェリー無
- ・山田康弘『松江市史 史料編 2 考古資料』第2章 縄文時代(縄文時代の概観・松江市の縄文時代・遺跡別解説) 総頁数55頁 2012(刊行予定)
- ・会下和宏「墓構成の変化、区画墓の展開」『弥生時代の考古学4・古墳時代への胎動』同成社、2011.8、レフェリー無
- ・会下和宏「弥生時代～古墳時代前期における鏡の『重ね置き副葬』」『日本考古学』No.32、2011.10、レフェリー有
- ・岩本崇・鈴木圭「島根県の動向～松江市廻原1号墳～」『中四研だより』第28号 中国四国前方後円墳研究会 pp.6-9 2011
- ・岩本崇「「出雲」地域における終末期古墳研究の現状と課題」『菟原』II 『菟原』刊行会 全12頁 2012(提出済)
- ・岩本崇・角田徳幸「山陰」『古墳時代研究の現状と課題』上巻 古墳研究と地域史研究 同成社 全20頁 2012(提出済)
- ・角田徳幸「たたら製鉄の地域的展開」『山陰におけるたたら製鉄の比較研究』島根県古代文化センター 2011

●**学会発表**(代表的なものを数件記入して下さい)

大橋泰夫「国郡制と台渡里官衙遺跡群の成立」茨城大学人文学部地域史シンポジウム(水戸市) 2012, 12, 11

岩本崇「廻原1号墳の調査」『第22回出雲古代史研究会』島根県埋蔵文化財調査センター(松江市)

2011, 7, 30

岩本崇「松江市廻原1号墳の調査」『平成23年島根考古学会12月例会』労働会館(松江市) 2011, 12, 18

岩本崇「播磨地域の前期古墳と社会構造」『第13回播磨考古学研究集会 前期古墳からみた播磨』播磨考古学研究集会 姫路市教育会館(兵庫県姫路市) 2012, 2, 05

岩本崇「島根県益田市四塚山古墳群出土の三角縁神獣鏡と「同範鏡」—山陰における古墳出現の一樣相—」第12回社会文化学科学研究交流会 島根大学法文学部(松江市) (予定) 2012, 3, 22

角田徳幸「出雲の石棺式石室」八雲立つ風土記の丘資料館(松江市) 2011, 9, 17

●**特許出願**

⑦**外部資金獲得状況**(当該プロジェクトに関連した外部資金について一覧の各項目に総件数, 金額を記入して下さい。)

■**外部資金獲得状況一覧**

		件数	金額(千円)
(1) 科研費 (配分額は間接経費を含む)		4	配分額 6400千円
(2) 科研費以外の外部資金	受託研究	0	0
	共同研究	0	0
	寄附金・助成金	0	0
	合計	4	6400千円

【**一覧内訳**】

(1) 科研費(科目ごとに, テーマ, 研究者, 金額をそれぞれ列挙してください。)

(例) 基盤(A)「研究テーマ」(研究者:〇〇) 〇〇〇千円

- ・大橋泰夫(研究代表者):平成21-23年度科研・基盤研究(C)「古代日本における法倉の研究」200万円(今年度80万円)
- ・大日方克己(研究代表者):平成21-23年度科研・基盤研究(C)「諸国公文・財政文書と受領の基礎的研究」160万円(今年度50万円)
- ・岩本崇(研究代表者):平成21-24年度科研・日本学術振興会科学研究費補助金・若手研究(B)「前方後円墳成立期の青銅器生産とその製作技術系統」270万円(今年度70万円)
- ・山田康弘:平成22-24年度科研・基盤研究(B)「考古学と人類学のコラボレーションによる縄文社会の総合的研究」,今年度440万円
(いずれも直接経費のみの金額)

(2) その他外部資金(一覧の項目別に, テーマ, 研究者, 金額を列挙してください。)

(例) 受託研究「研究テーマ」(事業名)(研究者)〇〇千円

⑧その他特筆すべき成果(受賞, シンポジウムの開催, 産学連携・地域連携に関する各種見本市, 展示会への出展等も含む)

1. 島根大学ミュージアムとの連携事業

本プロジェクトの研究成果を広く市民・研究者に発信するためにミュージアムと共同で市民講座を実施した。毎回、40～50名前後が参加し、盛況であった。

平成23年度島根大学ミュージアム市民講座第2ステージ

考古学・歴史学が語る先史・古代の『出雲』（まつえ市民大学連携講座）

主催：島根大学ミュージアム・島根大学萌芽研究プロジェクト「『出雲国』成立過程における地域圏の形成と展開に関する総合的研究」

共催：島根大学生涯学習教育研究センター・山陰研究センター

第39回 会下和宏「東アジアからみた出雲の弥生墳墓」：平成23年10月29日（土）

第40回 岩本 崇「古墳の出現・終焉と『出雲』」：平成23年11月12日（土）

第41回 角田徳幸「古代の鉄・鉄器生産」：平成23年12月10日（土）

第42回 大橋泰夫「考古学からみた国郡制の成立と出雲国の形成」：平成24年1月28日（土）

第43回 大日方克己「出雲国風土記抄を読む-岸崎佐久次の古代出雲-」：平成24年2月18日（土）（予定）

第44回 山田康弘「弥生時代のはじまりと渡来人-「出雲」形成前史-」：平成24年3月17日（土）（予定）

2. 茨城大学人文学部との連携

大橋が担当している、「出雲国形成期の考古学的研究」は、茨城大学人文学部や水戸市で発掘調査を進めている常陸国那賀郡衙（台渡里官衙遺跡）と関わりが深い。茨城県も『常陸国風土記』があり、出雲国とともに古代日本の国郡制形成を考える上で重要な地域である。

そこで、茨城大学人文学部地域史シンポジウム（2012, 12, 1）で、大橋が萌芽研究の成果に基づいて基調講演を行い、茨城大学・新潟大学の教員や地域研究者と研究の上で連携を図った。

⑨ 本年度の主要な研究成果 (図, 表, ポンチ絵などを多用して, 2ページ以内にわかりやすくまとめてください)

(1) 考古学的な研究成果

畿内地域の大王や官人層が埋葬方法として採用した「横口式石槨」をもつ、出雲地域の唯一の事例である廻原1号墳の発掘調査を実施した。その結果、廻原1号墳には、出雲地域に特徴的な埋葬施設とも多くの共通点があることを確認した。墳墓築造に在地の裁量がある程度許容されるような、畿内地域とのゆるやかな関係性のなかで出雲国が成立した可能性を示唆する、古代出雲の実像に迫る重要な成果である。今後、さらなる検討を進めれば、出雲国の成立事情をより具体的に描くことが可能となる。



(2) 文献史学的な研究成果

史資料の調査・収集として、平安時代までの古代出雲に関する史料の収集を進めた。国司に関する史料はほぼ網羅、整理して、国司表としてまとめた。また、出雲国風土記の諸写本と注釈書の調査・収集、延喜式など古代出雲にかかわる史料、それに関する写本・版本・注釈書・研究書の調査・収集なども行い、分析にも着手した。その成果の一部については、学術論文に発表している。



⑩研究終了後の展開（科研費などへの申請等）図などで解りやすく示してください。

萌芽研究の成果である、「古代出雲」に関連する考古学資料・文献史料の基礎データを基にして、さらに『出雲国風土記』に記述される地域的なまとまりが行政的に成立するに至る過程を、通時的かつ実証的に把握する研究を進める。

平成 24 年度以降については、本研究の目的である『出雲国風土記』に記述される地域的なまとまりが行政的に成立するに至る過程を解明するために、科研費の申請を行った（研究代表者・大橋泰夫「国郡制と国府の成立」）。採択された場合、引き続いて出雲国の成立・形成過程の研究を深め、科学的に裏付けられた古代出雲の歴史像に関する研究をおこない、その成果を教育や地域貢献に活かしていく。

計画

考古資料の再検討

フィールド調査の継続!

文献史料の再検討

古代出雲の実像解明!
古代出雲にたいする認識の実証的把握

今後の展望

研究成果の公開・普及啓発活動

科学的な歴史的認識の構築!
地域における文化財の持続的保存・活用